



佐藤忠暉議員

教育行政

少子化に伴い統廃合の検討を

複式学級は教育の原点だ

質問 平成20年の所信表明で馬場善也教育委員長は「小学校の再編統合については、少子化に伴い児童数が減少していくことから、よりよい教育環境づくりをするため、検討しなければならぬ課題だと思っている」と述べた。

さらに当時の松尾光信教育長も「平成18年の町の出

生数は131人であり、その後も減少傾向である。したがって、小学校の統廃合は避けて通れない状況にあり、その方向で検討しなければならぬ」と答弁した。その後、小学校の統廃合についてどのように考えているか。

岩船教育長 確かに「児童数の減少は、統廃合の方向



複式学級での授業風景
(荒川小学校5、6年生)

議員7人が一般質問

害虫駆除

マイマイガ駆除の対応は町環境衛生実践会と連携

を考える一つの要素である」と思うが、複式学級が必ずしも学力の低下になるものではなく、複式学級経

営の研究を深めることにより、学力が向上している事例はたくさんある。

本町における小規模校といわれる三つの小学校は、向こう7年間、現在の児童数がやや減少するものの40人弱から50人弱程度、学級数は4学級で推移すると予想されることから、今後、じっくりと検討したい。

質問

昨年夏、本町でもマイマイガが大発生し、通行人や住民に不愉快な思いをさせたり、車のフロントガラスにびたつと張りついて運転のじゃまになったりして大変な被害を与えたが、本年は昨年以上の大発生が予想される。

私は、マイマイガの卵の駆除について、昨年の第3回定例会で「町が音頭をとって行つてはどうか」と取り上げたが、その後、どのように取り組みどんな対

応をとっているか。

沼崎町長 マイマイガなどの卵塊駆除については、秋の大掃除の共同作業時に、町環境衛生実践会連合会などと連携して実施した。

本年4月下旬から町内各所で、マイマイガなどの幼虫が散見されたことから、該当する公共施設の担当課では、薬剤散布による幼虫駆除を実施した。

自治会などが行う幼虫駆除への支援策として、噴霧器の貸し出しをしている。